

「支援する人が、一人で頑張ったらあかん」

支援者のための支援センター「TOMONY」



スーパーバイザー研修を受講する参加者。

東日本大震災のボランティアは、長期にわたる活動となり、支援者の間に徐々に疲れが目立ち始めています。そんな中、支援者のための支援活動を続けているのが「TOMONY」（トモニー）です（2012年2月17日発足）。3人の共同代表およびみやぎ生協をはじめとする8つの主幹団体等から構成され、事務局は仙台

YWCA 会館内に置かれています。

共同代表の一人である小澤義春さん（みやぎ生協生活文化部部長）は5月に行なわれたTOMONY オープニング・プログラムで、「支援を必要としている方がいる限り、支援者がいます。スーパーバイザー^{*}を育てていく活動や支援者の方のためのサロン活動などで、支援者を支援する活動を進めていきます」と話しています。

9月14日には、5回目のスーパーバイザーの研修が、仙台YWCAで開催されました。講師はTOMONYのスーパーバイザー、金香百合さん（HEAL ホリスティック教育実践研究所所長）で、「支援する人が一人で頑

張ったらあかん、しんどい時は休まないとかかん」とメッセージを送ります。参加していた兼子佳恵さんは、「ここは手放して自分を認めてくれるので元気になります。継続して開催されているのもいいですね」とTOMONYの良さを示してくれました。

^{*} 支援者への助言を行なう人をTOMONYでは、スーパーバイザーと位置付けている。



講義後、2人1組で感じたこと、今の気持ちを話し合う。

地域の健康をサポート

(株)コナミスポーツ&ライフとみやぎ生協で体操教室実施



無理をしない範囲で、皆が体を動かすことができるようなプログラムとなっている。

9月19日、(株)コナミスポーツ&ライフとみやぎ生協県北ボランティアセンター共催の「体操教室」が宮城県気仙沼市の本吉総合体育館で開催されました。この体操教室は、8月から12月の5カ月間、週1回のペースで気仙沼市内の3カ所で行

なわれており、仮設住宅の住民など約150人が参加しています。

この取り組みは、経済産業省の「平成23年度東北復興に向けた地域ヘルスケア構築推進事業」の一環で行なわれているもので、医療機関や介護機関と連携しながら、被災地の人々の健康増進を図るのがその目的です。

参加者たちは、血圧の測定や運動をし、終了後には、コープこうべやコープぎふから贈られたお菓子を食べながら、楽しんで参加していました。

(株)コナミスポーツ&ライフの森谷路子さんは、「健康のための運動は継続が大切です。この事業は12月に

終わってしまい、当社としては参加が難しくなります。地域に密着するみやぎ生協さんと一緒に運営することで、継続の可能性を見出していければと思います」と話していました。



お茶会には、コープこうべやコープぎふから提供されたお菓子が登場。参加者は生協のつながりの広さに驚いていた。